平成 28 年度　長岡市立図書館の活動評価

図書館法第 7 条３項の規定に基づき、平成２８年度の長岡市立図書館の活動について、次のとおり評価を実施した。評価は、指標に基づく内部評価と長岡市図書館協議会委員による外部評価から構成される。

○　評価の概要

・基本評価は、評価対象の 13 項目中、５項目がＡ、ＡＡ評価となり、昨年度と同様の結果となった。また、Ｂ評価は８項目となった。
・重点事項評価は、事業別評価の１９項目では、Ｂの評価が１項目あった他はすべてＡの評価となった。また、総括評価では、すべてがＡの評価であったことから、全体としては、優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている。

○　評価の項目

１　基本評価（前年度比較による数値評価）

前年度（平成 27 年度）の数値と比較し、評価を行う。

① 利用状況

中央図書館入館者数、個人貸出冊数、予約件数、有効登録者数、登録率、実登録者数、登録率、インターネットアクセス件数、中央図書館開館日数、郷土資料受入点数、窓口対応満足度、大活字本の所蔵冊数、新規購入冊数・割合

（特別資料の転載等許可件数は参考数値とする。）

② 管理運営費

図書館費及びその内訳は参考数値とし、評価を行わない。

２　重点事項評価

長岡市立図書館の運営方針における重点事項について、重点事業の実績をもとに評価を行う。ただし、項番３と５は内部評価のみとする。

１ 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。
２ 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図る。
３ 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
４ 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する。
５ 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。
６ 利便性の向上を図り、快適な環境づくりに努める。

評価の方法

1　図書館の内部評価

・項目ごとに前年度数値と比較するなどして算定し、評価する。

・「基本評価」、「重点事項評価」ともに、ＡＡからＣまでの４段階の評価とする。

区　　分	評価区分・内容
1　基本評価	ＡＡ　･･･ 前年度を大きく上回った。（＋１０％超） Ａ　･･･ 前年度維持・伸張した。（０～＋１０％） Ｂ　･･･ 前年度を下回った。（０未満～－１０％） Ｃ　･･･ 前年度を大きく下回った。（－１０％超）
2　重点事項評価	ＡＡ　･･･ 優れた取組が多く、十分成果が上がっている。 Ａ　･･･ 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている Ｂ　･･･ 一定の成果は上がっているが、工夫等が必要である。 Ｃ　･･･ 成果が上がっておらず、改善や見直しが必要である。

2　図書館協議会による評価

① 協議会の開催

・日　時　　平成 29 年2月 24 日（金曜日）

・会　場　　長岡市立中央図書館講座室１

② 協議会の意見のとりまとめ

・上記協議会における各委員の意見を渡邉誠介委員長がとりまとめ、図書館協議会による評価とする。

○　図書館協議会意見

１　「基本評価」について

・評価は事務局の報告どおりで良いが、今後、データが何を語っているのかを読み取っていくことが重要である。

２　「重点事項評価」について

（1）【２－１　当市をはじめとする郷土資料に関する各種資料の収集・保存・活用に努める。】

・郷土資料を積極的に収集し、各種講座に活用したこと、長岡市災害復興文庫を図書館総合展に出展し、大きな反響があったことなどを評価する。

（2）【２－２　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図る。】

・市役所の部局が、課題解決や政策立案をするにあたって図書館を積極的に使うことは、図書館の課題であるとともに市役所全体の課題であると思う。

・図書館でコモンラーニングの手法を使って、地域課題を解決することも将来的には行ってほしい。

（3）【２－３　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。】

・内部評価のとおりとする。

（4）【２－４　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する。】

・図書館職員が保育園の保育士に読み聞かせの技術を教えていることに驚いた。図書館の活動の幅が広がっていることはとても良い事だと思う。

・高校は地域と積極的にかかわる機会を待ち望んでいるので、今後も声をかけて欲しい。

（5）【２－５　勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。】

・内部評価のとおりとする。

（6）【２－６　利便性の向上を図り、快適な環境づくりに努める。】

・中央図書館の学習室は２階にあり、本と離れているので工夫が必要と思われる。

平成２８年度長岡市立図書館の活動評価　1　基本評価

ＡＡ	前年度を大きく上回った（＋１０%超）
Ａ	前年度維持・伸張した（０～＋１０%）
Ｂ	前年度を下回った（０未満～－１０%）
Ｃ	前年度を大きく下回った（－１０%超）

①　利用状況

項　　目	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	評価	備考
入館者数（中央図書館・人）	３４２,１４５	３３８,７９０	３２２,５４１	Ｂ	
個人貸出冊数（冊）	1,６１６,２１９	1,６４７,０５７	1,６１７,６４６	Ｂ	
予約件数（件）	１８６,１５２	１８８,６７９	１９７,１４５	Ａ	
有効登録者数（人）	４９,５２２	４９,１３９	４８,２８７	Ｂ	
登録率（%）	１７．８５	１７．８５	１７．６３	Ｂ	
実登録者数（人）	３７,７４９	３７,７９８	３６,５８０	Ｂ	
登録率（%）	１３．６０	１３．７３	１３．３６	Ｂ	
インターネット アクセス件数（件）	４７５,３７０	２９９,７１５ （２２２,０９１）	３４０,９３８	ＡＡ	
中央図書館開館日数	２９５	３０１	２９９	Ｂ	
特別資料の転載等許可件数	５６７	９０	１１７		参考数値
郷土資料受入点数	3,２２６	3，０９０	3，３２２	Ａ	
窓口対応満足度（大変よい＋よい）%＜中央館のみ＞	８３．５	８３．４	８５．８	Ａ	
大活字本の所蔵冊数	5,９７３	6,２４５	6，５１５	Ａ	

新規購入冊数・割合	37,072 （4.2%）	34，894 （3，9%）	34，577 （3．8%）	B	

＊有効登録者数は貸出カード有効期限内の登録者数
＊実登録者は有効登録者のうち年度内に１度以上貸出のあった登録者数

② 管理運営費

項　　目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	評価	備考
図書館費 （各年度の決算額・千円）	447，008	357，498	363，915		
（うち施設管理経費）	244，012	228，408	262，122		
（うち資料費）	66，829	62，741	63，175		
（うち事業費）	136，167	66，349	38，618		

２　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－１　当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

２－１　重点事項を達成するための重点事業

① 貴重資料の公開
② 郷土資料の充実
③ 古文書等の歴史資料の収集・保存・活用
④ 歴史公文書の収集・保存・活用
⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

（１）重点事業概要

① 貴重資料の公開

当館で所蔵している貴重資料の軸物・写本等を適切に保存するよう努めるとともに、展示公開し活用する。

② 郷土資料の充実

・長岡市や新潟県に関係する歴史・人物・民俗などの郷土資料を収集し登録・保存活用する。
・話題になった郷土資料を迅速に収集する。

③ 古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

・各種講座の開催、長岡市史双書の刊行、歴史資料所在確認調査などを行う。
・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。

④ 歴史公文書の収集・保存・活用

・市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存のうえ、目録を作成し、市役所での内部公開を検討する。
・今年度から災害復興関連の歴史公文書は長岡市災害復興文庫として整理する。

⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。
・災害復興関連の歴史公文書を災害復興文庫の資料とする。
・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新、講習会への講師派遣などの連携を強化する。
・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。
・長岡市災害復興文庫展や第 18 回図書館総合展などをとおして、県内外に情報発信を行う。

（2）事業実績

① 貴重資料の公開

・ネットミュージアムにコンテンツ追加１４点

・エントランス展示回数年間１６回（平成２７年度１５回）

② 郷土資料の充実

・2,946 点の受入れのうち、寄贈受入は 2,380 点（平成２７年度 1,883 点）

③ 古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

・新たに公開した古文書等の歴史資料　　４０件・７，５７８点（平成２７年度　１６件・７１１点）

・古文書解読講座等の各種講座の開催回数・参加者数　１３回・６４１人

④ 歴史公文書の収集・保存・活用

・歴史公文書の収集・保存　１，１２３点（１１５箱）（平成２７年度　1,433 点・１２３箱）

※内長岡市災害復興文庫の歴史公文書２５９点（３３箱）

⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

・長岡市資料整理ボランティアの活動　全１４日活動、延べ１９８人参加。

・長岡市災害復興文庫展２０１６「長岡と福島・南相馬～絆の記憶と記録～」の開催

・第１８回図書館総合展（パシフィコ横浜）に初出展

（3）－1　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	エントランス展示で貴重資料の紹介だけでなく文化講座と連携させるなど充実した情報を発信した。
②	A	郷土資料の蔵書数は図書館全体で、昨年度より2,９００冊程度増加した。
③	A	古文書等の歴史資料の適切な収集・整理・保存・活用に努め、古文書解読講座等の各種講座などで活用した。
④	A	庶務課等の関係各課と連携して、歴史公文書の適切な収集・整理・保存に努めた。
⑤	A	長岡市災害復興文庫事業を推進し、市民協働と情報発信に努め、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国発信した。これにより、他の被災地の自治体・関係機関からの視察や連携につながった。

（3）－2　総括評価

重点事項	評価	評価理由
1	A	貴重資料を有効に展示活用するとともに、話題の本も含め幅広い郷土資料の収集に努めた。また、長岡市災害復興文庫事業を推進し、長岡市資料整理ボランティアとの市民協働、全国の関係機関・団体との連携、第１８回図書館総合展への出展などをとおして、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国発信し大きな反響

		があった。

（4）今後の課題・方向性

・貴重資料については、計画的にデジタルデータ化を進めて行く必要がある。

・郷土資料については、地域の情報を新聞や出版案内を基に情報収集するとともに、各支所などに積極的に図書館の資料保存について理解を働きかけていく必要がある。

・歴史資料・歴史公文書について、保管場所を確保するとともに計画的に整理、内部公開を進めていく必要がある。

・長岡市災害復興文庫の充実とＰＲを図り、市民利用を促進させて行く必要がある。

重点事業：２－１－①　貴重資料の公開

＜目的・概要＞

・中央図書館のエントランスでの貴重資料展示回数を確保するとともに、図書館報「図書館の窓から」で紹介し、市民に所蔵資料を紹介する。

ながおかネットミュージアム	エントランス展示
 牧野忠精　画賛	 牧野康成（長岡藩主初代忠成の父）軍忠状を展示

＜評価＞

① ながおかネットミュージアム
（平成２８年度実績）藩主牧野氏関係資料の貴重資料の軸物１４点を追加した。
（平成 27 年度実績）「長岡城攻防絵図」等１１点を追加した。
②エントランス展示回数
（平成２８年度実績）　１６回
（平成２７年度実績）　１５回

「図書館の窓から」で紹介している所蔵資料を展示し、そのほか牧野忠恭の画賛や小林虎三郎の軸物など図書館資料１６点の紹介を行い、貴重資料を数多く市民に公開する機会となった。

＜課題＞

・約 １７０点の貴重資料をネットミュージアムで公開しており、将来のオープンデータとしての公開も視野に入れながら、計画的に貴重資料などのデジタルデータ化を進めていく必要がある。
・コンテンツが毎年増えており、構成の整理や検索機能の検討を継続していく必要がある。

重点事業２－１－②　郷土資料の充実

＜目的・概要＞

・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。

・図書館の開館 100 周年や開府 400 年、戊辰戦争 150 年を意識した資料の充実を図る。

・行政からの収集のほか、新聞・雑誌などの媒体からの情報収集を行い、幅広い資料の収集に努める。

・図書館未設置地域に関する郷土資料は中央図書館にて継続して収集する。

＜評価＞

全館（中央館と地域館すべて）の郷土資料蔵書数

	全館郷土資料蔵書数 （各年度３月３１日現在の所蔵）	前年比 増加冊数
平成２４年度	82,043 冊	3,471 冊
平成２５年度	84,787 冊	2,744 冊
平成 26 年度	88,053 冊	3,266 冊
平成２７年度	91,143 冊	3,090 冊
平成 28 年度	94,465 冊	3,322 冊

・新聞や、雑誌に掲載された郷土資料について情報を収集し、迅速な発注・寄贈依頼、登録を行った。
・平成２８年度は古書市での購入やインターネット（古書販売サイト）を通じて、話題になった本等、利用者が興味を引く内容の郷土資料を迅速に収集した。

＜課題＞

・郷土資料の収集においては、すべての支所地域を網羅的に収集する必要がある。
・毎年度定期的に市役所各課に資料寄贈依頼を行っており、一定の量の収集を行っているが、今後は各支所に積極的に働きかけるなど、支所地域の資料の収集に力を入れていく必要がある。
・郷土資料の保管場所として与板支所の書庫を借用し、書庫として利用できるスペースを確保していたがスペースが全て埋まったため、今後の保管スペースの確保が課題である。

重点事業２－１－③　古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

＜目的・概要＞

・郷土長岡の歴史を知り、愛着をもってもらうため、文書資料室が所蔵する郷土資料を活用し、各種講座の開催、長岡市史双書の刊行を行う。また郷土の歴史資料を守るため、歴史資料所在確認調査を行い、歴史資料の取扱いについて相談を受け付けている。

・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。

長岡市史双書№56



長岡市史双書を読む会



＜評価＞

古文書等の歴史資料の保存・公開に努めた。古文書等の歴史資料を活用し、各種講座の開催・長岡市史双書の刊行を行い、郷土長岡の歴史を知る機会を市民に提供した。

（今年度実績）

・各種講座の開催

講　座　名	回数	参加人数	会　　場
古文書解読講座「古文書のいろは」	３回	１２９人	中央公民館
古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」	６回	３０２人	中央公民館
長岡市史双書を読む会	３回	１９５人	中央図書館
歴史資料保存講座	１回	１５人	中央公民館

・新たに公開した古文書等の歴史資料の件数　２１件　内寄贈２０件・移管１件・寄託０件

・長岡市史双書№５６『近代長岡の雑誌(2)「温古の栞」と大平与文次・温古談話会』600 部刊行

・歴史資料所在確認調査　与板地域を調査。調査箇所　２か所

・歴史資料取扱い相談受付数　１７件　　内訪問調査回数　１１件

（昨年度実績）

・各種講座の開催

講　座　名	回数	参加人数	会　　場
古文書解読講座「古文書のいろは」	4回	258 人	中央公民館
古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」	6回	378 人	中央公民館
長岡市史双書を読む会	3回	232 人	中央図書館

・長岡市史双書№.５５『江戸時代の旅と旅日記⑶東北への旅②』600 部刊行

・歴史資料所在確認調査　与板・越路地域を調査。調査箇所　２か所

・歴史資料取扱い相談受付数　１２件　　内訪問調査回数　６件

＜課題＞

・古文書解読講座は定員を上回る参加希望者があるため、新規参加希望者が受講しにくい状況がある。広報の方法等を工夫して、現在の参加者を確保しつつ、更なる層を開拓していく必要がある。

・古文書等の歴史資料は、所有者の家の建て替えや代替わりで、個人での保存が難しく、そのまま寄贈となる例が多い。今後も、受け入れ件数の増加が見込まれることから、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。

重点事業２－１－④　歴史公文書の収集・保存・活用

＜目的・概要＞

・長岡市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存する。

・歴史公文書の目録を作成し、市役所での内部公開を検討する。

・今年度から災害復興関連の歴史公文書は長岡市災害復興文庫として整理する。

歴史公文書の保存箱



歴史公文書の整理作業



＜評価＞

（今年度実績）

・歴史公文書の目録件数

　１，１２３点（１１５箱）　内長岡市災害復興文庫の歴史公文書２５９点（３３箱）

・保管場所　旧半蔵金小学校・旧種苧原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など

・歴史公文書の問い合わせ件数　５件

（昨年度実績）

・歴史公文書の目録件数　1,433 件（123 箱）

・保管場所　旧半蔵金小学校・旧種苧原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など

・歴史公文書の問い合わせ件数　２件

＜課題＞

・庶務課と連携して目録の内部公開に向けてさらに協議を進める必要がある。

・歴史公文書の収集・保存に関する基準を再検討し、長岡市のガイドラインを作成する必要がある。

重点事業：２－１－⑤　長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

＜目的・概要＞

・災害と復興の経験・教訓を後世に伝える。

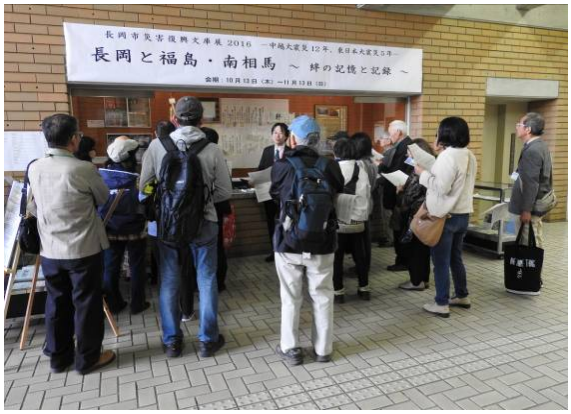
・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。

・災害復興関連の歴史公文書を災害復興文庫の資料とする。

・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新、講習会への講師派遣などの連携を強化する。

・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。

・長岡市災害復興文庫展や第 18 回図書館総合展などをとおして、県内外に情報発信を行う。

長岡市災害復興文庫展 2016	第 18 回図書館総合展
	

＜評価＞

（今年度実績）

・長岡市災害復興文庫事業

※展示会や刊行物などについて、広報編集課と連携して、年度をとおして報道機関へ取材依頼し、市民への広報に努めた。

〇長岡市資料整理ボランティア＆十日町市古文書整理ボランティア大交流会 in 十日町の開催

参加者　38 人（長岡１４人、十日町 20 人、その他４人）

〇長岡市災害復興文庫展 2016「長岡と福島・南相馬～絆の記憶と記録～」の開催

期間:10 月 13 日～11 月 13 日　場所:中央図書館１階　エントランス

関連行事：ギャラリートーク（3回）　講師：南相馬市民、南相馬市立中央図書館職員ほか

福島県立図書館「東日本大震災　福島県復興ライブラリー」連携展示

シンポジウム「東日本大震災と熊本地震」の開催（10 月 22 日、（公財）中越防災安全推進機構と共催、長岡震災アーカイブセンターきおくみらい）

〇関連書籍の刊行（再版・頒布）　『リレー講演会「災害史に学ぶ」記録誌』　４５０部

〇国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に東日本大震災時に市内避難所で撮影された記録写真約１３３点を新規コンテンツとして追加した。

〇第１８回図書館総合展に初出展

期間:11 月8日～11 月 10 日　場所:パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

総来場者数：３１，３５５人　関連行事：熊本地震に関するミニ・フォーラムでの報告

・長岡市資料整理ボランティアは、全１４日活動、延べ１９８人の参加があった。

・新潟歴史資料救済ネットワークは、山古志地域で全２日活動、延べ３３人の参加があった。

・「東日本大震災に関する書類・写真の整理・保存講習会～被災支援活動の経験・ノウハウを活かすために～」（主催：国立国会図書館、会場：福島県福島市）等で長岡市の活動を紹介した。

（昨年度実績）

・長岡市資料整理ボランティア発足 10 周年記念行事などを開催した。

・長岡市資料整理ボランティアは、全１８日活動、延べ２４８人の参加があった。

・新潟歴史資料救済ネットワークは、全２日活動、６８人の参加があった。

・「東日本大震災に関する書類・写真の整理・保存講習会～被災支援活動の経験・ノウハウを活かすために～」（主催：国立国会図書館、会場：宮城県仙台市）等で長岡市の活動を報告した。

＜課題＞

・平成 26 年 10 月に開設した「長岡市災害復興文庫」の市民へのＰＲを継続するとともに、歴史公文書の収集・保存などの充実を図っていく必要がある。

・今後も、県内外の文書館・図書館・博物館とのネットワークの構築を図るとともに、長岡市資料整理ボランティアや新潟歴史資料救済ネットワークなどとより一層の連携を図る必要がある。

２－２　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－２　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図る。

２－２　重点事項を達成するための重点事業

① 中高生向け図書館しごと応援事業
② 庁内行政支援レファレンス

（１）重点事業概要

① 中高生向け図書館しごと応援事業

若者向けのビジネス支援や将来の職業を考えるための資料などを提供し、「若者自らが魅力を生み出すまちづくり」を積極的に応援する。

② 庁内行政支援レファレンス

市の行政に関する調査について、図書館資料を用いて支援することで、図書館の有用性をＰＲし、行政との連携を強化する。

（２）事業実績

① 中高生向け図書館しごと応援事業

・中高生向けの仕事選びに関する資料のコーナーを新設した。
・オンラインデータベースを２アクセス増設した。

② 庁内行政支援レファレンス

２月より、市役所職員専用の仕事に関する調査を引き受ける質問票のフォーマットと受付方法の紹介を庁内ネットワークの掲示板に掲載し案内を開始した。28 年度は２カ月で６件の依頼を受けた。29 年度も順調に依頼が届いている。

（３）－１　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	仕事に関する資料を１ヶ所にまとめたことで、新しい利用を促すことができた。
②	B	準備に時間がかかったが、様式を整え実施することができた。

（3）－2　総括評価

重点項目	評価	評価理由
2	A	仕事に関する支援について、新たなサービスを立ち上げ、資料やサービスの充実を図ることができた。

（4）今後の課題・方向性

オンラインデータベースの利用が伸び悩んでいるので普及・ＰＲに努めるとともに中・高校生世代の利用をさらに伸ばすような工夫が必要である。

また、行政への支援を足掛かりに、ビジネスに関するレファレンスのスキルを磨いていく必要がある。

重点事業：２－２－①　中高生向け図書館しごと応援事業

＜目的・概要＞



若者向けのビジネス支援や将来の職業を考えるための資料などを提供し、「若者自らが魅力を生み出すまちづくり」を積極的に応援する。

・オンラインデータベース２件を導入する。（ジャパンナレッジ、日経 BP 記事検索）

・夏休みボランティアプログラムに組み込み、データベースを使った調査体験を行う。

【「若者よ、大志をいだけ！」長岡しごと応援隊】

＜評価＞

特設コーナーを設け、資料を約５００冊用意した。資格関連図書やお仕事小説など幅広く購入することができ、利用につなげることができた。

職場体験や夏休みボランティアに参加した中高生、オンラインデータベースを使って回答する問題に取り組んでもらった。

＜課題＞

資料は順調に利用されているが、ターゲットとした中・高校生世代の利用をさらに伸ばすような工夫が必要である。

また、オンラインデータベースの利用が伸び悩んでいるので、普及に努めていきたい。

重点事業：２－２－②　庁内行政支援レファレンス

＜目的・概要＞

市の行政に関する調査について、図書館資料を用いて支援することで、図書館の有用性をアピールし、行政との連携を強化する。

＜評価＞

課題の検討に手間取り実施が遅くなったが、早々に反応があった。

例）シティプロモーション課・・・日本酒の小ネタを探している。

開府 400 年記念事業準備室・・・令終会の寄付金資料について

秘書課　　・・・・・・・・・・・・河井継之助の言葉について

＜課題＞

行政への支援を足掛かりに、他の企業や一般利用者からのビジネスに関するレファレンスに活かせるようにスキルを磨いていく必要がある。

２－３　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－３　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

２－３　重点事項を達成するための重点事業

① 利用者アンケートの実施
② 友の会事業
③ ご意見ポストの設置

（１）重点事業概要

長岡図書館友の会「なりふ」との連携した図書館運営や、利用者からの意見を広く集めることにより、市民といっしょに作り上げる図書館を目指す。

① 利用者アンケートの実施
② 友の会事業
③ ご意見ポストの設置

（２）事業実績

① 利用者アンケートの実施

中央図書館では、昨年同様８月に６日間のアンケートを実施した。

② 友の会事業

３月に総会を実施し、順調な活動を行った。

③ ご意見ポストの設置

毎月意見を集約し、可能な限り対応した。

（３）－１　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	アンケートにより利用者のニーズを把握し、業務に活かすことができた。
②	A	昨年に引き続き古本市を実施。売上も評判も好評だった。全体として順調な活動を行っている。
③	A	評価はおおむね良好であり、意見への対応も全て検討し可能な限り改善した。

（3）－2　総括評価

重点事項	評価	評価理由
3	A	おおむね順調な業務・活動を行っており、寄せられた意見に対応した。

（4）今後の課題・方向性

・満足度の高い図書館を目指すため、アンケートの実施方法などを検討する必要がある。

・アンケート調査を分析し、利用者の声を図書館運営やサービスの改善に結びつけていく必要がある。

重点事業：２－３－①　利用者アンケート

＜目的・概要＞

・例年どおり実施し、昨年との比較や現状の利用者の意見を把握したい。

アンケート項目

【中央図書館】	【地域図書館】
〈利用者アンケート〉 ○ 館内や本棚の表示はわかりやすいですか ○ 本の種類は充実していると思いますか ○ 図書館を利用する理由は何ですか？ ○どのくらいの時間、図書館にいましたか？ など	＜利用者満足度アンケート＞ ○スタッフについて 挨拶や言葉づかい、接客対応など（３項目） ○施設の快適さについて 設備、分かりやすさ、案内情報(４項目) ○図書館サービスについて 資料の充実、展示物などについて(５項目)

＜評価＞

○ 中央図書館のアンケート

アンケートは時間を決めてエントランスで配布。夏休みボランティアに参加している中学生に配布を手伝ってもらったところ、利用者の反応がよかった。窓口応対については、「大変よい」＋「よい」が 83.4%とおおむね好評をいただいた。「大変よい」が 32.8%から 36.7%に上昇し、満足度を上げることができた。

（今年度実績）　配布数　788　回収数　658　回収率　83.50%
（昨年度実績）　配布数　1,018　回収数　694　回収率　68.17%

○ アンケート結果への対応

窓口応対については毎年意見にあがるため、一層注意を払うよう心がける。
本が探しづらいので検索機のそばに図書館マップがほしいとの意見を受け早速設置した。
としょリンピックのリニューアルが好評だった。来年も工夫を凝らしたい。

○ 地域館のアンケート

（今年度実績）　配布・回収数　1,497（全て回収）
（昨年度実績）　配布・回収数　894（全て回収）

今年度は各館１００枚回収をめどとしてアンケートを行った。どの館も目標を達成し、昨年を上回る回収ができた。スタッフの対応については満足の割合が高く、好意的な回答がほとんどであった。また、児童のイベントに工夫があって良かったと評判がよかった。

＜課題＞

(中央図書館)

・実施時期が夏のため、空調に関する意見が多かった。こまめな館内巡回を行い、適切な室温管理に努める。

・本や雑誌の充実を希望する意見が多かった。人気の資料は予約にまわり、棚に置かれることが少ないため、新刊を購入していないと誤解している人がいるようだ。

(地域館)

・所蔵している本や新聞の種類についての満足度が低い結果となっているので、検討が必要である。特に資料の入れ替えの希望が多い。限られたなかでどのような工夫ができるか検討が必要である。

重点事業：２－３－②　友の会事業

＜目的・概要＞

図書館支援団体として図書館と連携し、活動を運営に活かす。

なりふ古本市	図書館視察
１０月１１日（日）13時～１５時 店主１１人（うち図書館員１人） 布絵本紹介２人読み聞かせ４人  【内容】 古本市、布絵本の展示、絵本等の読み聞かせ、工作 【成果】 ・２７１冊を販売し、１４，７２０円の売り上げがあった。売り上げの３割、４，４００円を社会福祉協議会のともしび基金へ寄付した。 ・おはなし会の参加は親子約１５組。	６月１７日（金）実施 視察先　南魚沼市図書館、鈴木牧之記念館 参加者　１５名（図書館職員同行２名）  【内容】 ・視察先の職員から館内の案内や活動概要の説明を受けることができ、参考になった。 ・南魚沼市図書館は平成２６年６月に駅前のショッピングセンター内に完成。館内の椅子や机は越後杉を使用しており、温かみが感じられた。すべての図書をＩＣタグで管理。書架不明がほとんどなくなったとのこと。

＜評価＞

２回目となる「なりふ古本市」では、会員同士の交流や市民との本を通じた交流を持つことができ、有意義な時間となった。また、友の会の活動を知ってもらう良い機会となった。残った資料も、フェニックス大手イースト前歩道で実施した「しぇあ☆ぼン」に提供し、活用することができた。

来年度も開催できるよう、準備を進めていきたい。

（今年度実績）

なりふ古本市開催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など

個人会員　３７名　賛助会員　５口

（昨年度実績）

なりふ古本市開催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など

個人会員　４７名　賛助会員　８口

＜課題＞

中央図書館長との意見交換会を行うなど、図書館との連携を強化するとともに、今後も、会員が主体となった企画・運営の取組みを支援する必要がある。

重点事業：２－３－③　ご意見ポストの設置

＜目的・概要＞

・開かれた図書館とするため、利用者の意見や要望を広く収集し、今後の運営に役立てる。

・意見の回答を掲示するとともに、事業改善を行う。

＜主な要望＞

（中央図書館）

○ おりがみの本が棚の下の方にあり、探しにくい。

○ 洋楽ＣＤの陳列がわかりづらく探しにくい。

○ 「●●●」に関する資料を入れてほしい。

など

（地域図書館）

○タバコのにおいで気分が悪くなった。

○多目的ルーム（学習室）の手元が暗い

○利用者用検索機付近に鉛筆も設置してほしい

など

＜評価＞

（中央館）

・窓口応対については、おおむね好評価をいただいている。意見をうけて、折り紙の資料は棚の中段に移動させ、切り紙の資料との混配を区別しわかりやすくした。洋楽ＣＤについては、人名の差し込み表示を作り見やすく工夫した。

・資料に関する要望には、可能なものはその都度対応した。

（地域館）

・意見を受けて、タバコなどの臭いには、特に利用者が多く滞在する場所に消臭剤を目立たないように設置し、換気扇を常時作動させるようにした。

・筆記用具については、今までは申請書の記入のためにボールペンだけを設置していたが、鉛筆も置くようにした。

・手元の暗さは、机の位置を調整し、証明の下に机がくるように工夫した。

＜課題＞

普段職員が気付きにくいことについての意見が多かったので、利用者の目線に立ったサービスの改善を一層心がけていく必要がある。

２－４　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項
２－４　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する。

２－４　重点事項を達成するための重点事業

① 「写真と資料で振り返る長岡市制施行 110 年のあゆみ展」の開催
② 各種機関と連携した事業の実施
③ 子ども読書活動推進計画関連事業の実施
④ 地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

（１）重点事業概要

長岡市立図書館では、子どもから高齢者までを対象に広く事業を行っている。今年度の事業から４点を選び評価を行いたい。

① 美術センター自主事業「写真と資料で振り返る長岡市制施行 110 年のあゆみ展」の開催

② 各種機関と連携した事業の実施

他の行政機関が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。

③ 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

平成２４年度に策定した「長岡市子ども読書活動推進計画」にもとづき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。

④ 地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

・地元地域に関連した行事に取り組む。
・「図書館を使った調べる学習コンクール　地域コンクール」の規模拡大を図る。

（２） 事業実績

①　「写真と資料で振り返る長岡市制施行 110 年のあゆみ展」の開催

入場者数　2,552 人（１５日間）

② 各種機関と連携した事業の実施

・文書資料室主催「長岡市災害復興文庫展２０１６ー中越大震災１２年、東日本大震災５年ー長岡と福島・南相馬～絆の記憶と記録～」における資料をエントランス展示。
・参考テーマコーナーにおいて、他館企画展との連携展示。

１０月　福島県立図書館　「東日本大震災福島県復興ライブラリー」
１月　新潟県立歴史博物館　すてきな布―アンギン研究 100 年

・長岡市の他課の行事と連携し、ブックコーナーや出張展示を実施。

商業振興課　まちゼミと連携。

中心市街地活性化協議会、中心市街地整備室、まちなかキャンパス長岡と連携し、まちぼン（資料の特別貸出・展示）を実施。

③ 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

・夏休み児童行事　教えて！南極のひみつ　　参加者数　５１人

・保育園等に出向いての絵本講座　実施回数　１０回　　参加者数　１２８人

④ 地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

・六角凧絵付け体験　参加者数　31 人

・しなのがわたんけん　参加者数　37 人

・図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクール　参加校数　１６校　４２作品

（3）－1　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	長岡市制施行 110 年のあゆみを、多くの写真や関連資料で紹介し、郷土への理解を深め、愛着を持っていただく機会となった。
②	A	テーマコーナーにおける資料紹介や出張展示などさまざまに連携を図ることができた。
③	A	夏休み行事や、保育園等での本の読み聞かせ等を通じて、子どもたちの好奇心や創造力を育み、本の利用や読書活動の推進につながった。
④	A	各地域図書館が持つ特色資料の関連事業の他、近隣の学校や団体等と連携した事業も積極的に実施した。

（3）－2　総括評価

重点事項	評価	評価理由
4	A	中央図書館・地域図書館ともに、工夫をこらし、多様な事業展開に取組んだ。

（4）今後の課題・方向性

・市民のニーズや時勢を見極め、各種機関との連携など柔軟な発想をもって多様な事業を展開していく必要がある。

・継続事業については、マンネリ化しないよう内容を常に見直し改善に努める必要がある。

・今後も可能な限り各種機関と連携を図り、相互の利用者を増やす工夫をしていきたい。

重点事業２－４－①　「写真と資料で振り返る長岡市制施行 110 年のあゆみ展」の開催

＜目的・概要＞

・長岡市制施行 110 年を記念し、明治 39 年から現代までの全 11 地域のあゆみを、写真パネルや関連資料等約 500 点でわかりやすく紹介した。



開場式では、西川口地域の人たちが「天神囃子」を披露



懐かしい写真や資料に見入る入場者

＜評価＞

・昔を懐かしむ高齢者を中心に、2,552 人の入場者を得ることができた。
・入場者アンケートからは、「懐かしかった」「わかりやすかった」「昔を思い出した」「昔のエネルギーを感じた」「先人の知恵に感動した」「どの時代も市井の人々は一生懸命に生きたことに感無量。生きる力をもらった」等の感想が寄せられた。
・一方で、「モニターの音が小さい」「支所地域の解説をもっと詳しく」「解説の文字が小さい」などのご意見もいただいた。
・本展を通じ、市民と行政が協働して困難を乗り越え、活力あるまちづくりに取り組んだ歴史を紹介したことで、郷土の魅力を再発見し、愛着や誇りの醸成につながった。
・次の工夫をした結果、集客につながった。

（関連行事）

◆外部講師（５人）による展示解説　５回　参加者数合計　210 人
◆当館職員によるミニ解説（７人）　９回　参加者数合計　86 人
◆長岡ゆかりの映画会　５回　参加者数合計　231 人

（同時開催）

◆あの年のベストセラーコーナー（１階閲覧室）
◆会期中、移動販売車によるガンジージェラート販売　１回　（売上 295 個）
◆関連書籍の割引販売　295 冊

（昨年度実績）

「合併 10 周年記念　郷土長岡を創った人びと展～中央図書館所蔵資料を中心に～」

２，０７５人（１３日間）

＜課題＞

メディアに取り上げてもらえるような積極的な広報の工夫が必要である。

重点事業２－４－②　　各種機関と連携した事業の実施

＜目的・概要＞

・他の行政機関等が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。

・参考テーマコーナーでは、文書資料室の災害復興文庫展と協力し、福島県立図書館の災害復興ライブラリー資料を借用し展示。また１月からは、県立歴史博物館の「すてきな布―アンギン研究 100 年」と協力し、関連資料を展示する。

・長岡まちゼミ実行員会が開催した「まちゼミ」について、商業振興課の依頼により関連資料の紹介やブックリストを作成する。

・長岡市中心市街地活性化協議会との共催及び中心市街地整備室との協力を得て、まちなかの公共施設２か所にテーマ別の書籍展示を行う（名称、まちぼン）。

福島県との連携展示　災害復興ライブラリー	まちぼン（タニタカフェ）
	

＜評価＞

・他の機関と協力することで、双方の事業のＰＲを行うことができた。また、仕事の交流が生まれたことで、今後につながる関係を築くことができた。

・中小企業庁、日本政策金融公庫、ＮＩＣＯ、長岡商工会議所などの事業ＰＲチラシを入手し、周知を図った。

＜課題＞

・今後もさまざまな関連分野での協力を行い、利用者に情報提供できるよう工夫を続ける必要がある。

重点事業２－４－③　　子ども読書活動推進計画関連講座の開催

＜目的・概要＞

・平成２４年度に策定した「長岡市子ども読書活動推進計画」にもとづき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。

・学校や家庭等での子どもの読書活動推進に役立つ講座等を実施する。

・保育園等へ出向いて保育士や保護者向けの絵本講座を実施する。

教えて！南極のひみつ	保育園等へ出向いての絵本講座
	
南極の氷に水をそそぎ、中に閉じ込められていた太古の空気が弾ける音を聞いた。	実際に絵本を手にとってもらいながら、絵本の読み聞かせのポイントなどについて伝えることができた。

＜評価＞

【夏休み児童行事　教えて！南極のひみつ】

・南極で使用されている雪上車を世界で唯一作っている地元企業 大原鉄工所と連携し、その上、国で南極の調査を担当している国立極地研究所の協力を得たため、大変充実した行事となった。長岡の南極観測隊員の生のおはなし、普段なかなか見ることのできない貴重な写真・音声・映像・南極の氷などが、子どもたちに夢を与え、本物に触れる機会となった。

・講演とあわせて、当館職員が、図書館の利用方法や資料の調べ方などを学ぶオリエンテーション、南極関連クイズ、関連本ブックリストの配布、エントランス展示を行い、講演以外でも子どもたちが自主的に学べるように配慮した。結果、南極クイズ（後日提出）は、２４人の達成者があった。

（今年度実績）

夏休み児童行事　教えて！南極のひみつ　平成２８年７月３１日（日）　参加者数　５１名

（昨年度実績）

子どもと楽しむ季節のわらべ歌

①「春から夏のわらべ歌を中心に」　平成２８年１月１６日（土）　参加者数　４７名

②「秋から冬のわらべ歌を中心に」　平成２８年１月３０日（土）　参加者数　３５名

【絵本講座】

・絵本の選び方や読み聞かせのポイント、絵本の魅力等について、日頃から子どもと接する時間の多

い保育士や保護者に広く伝える機会となった。

（今年度実績）

実施回数　１０回

参加者数　１２８人

（昨年度実績）

実施回数　１８回

参加者数　３４４人

＜課題＞

【教えて！南極のひみつ】

・今回のように学ぶことを重視した行事の場合、参加人数が減ったとしても、対象となる子どもの年齢を絞り込み、理解力を想定して内容を構成、募集する必要がある。

【絵本講座】

・PR の拡大と、それにともなう職員の受入れ体制の整備を行う必要がある。

重点事業２－４―④

地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

＜目的・概要＞

・今年度も地元地域に関連した行事に取り組む。特に近隣団体や学校と連携した企画に力を入れ、図書館が利用者と地域をつなぐ様々な事業を行う。

・地域館全館の自主事業として行う「図書館を使った調べる学習コンクール　地域コンクール」（市内全小学校対象）については、長岡市の『熱中！感動！夢づくり教育』事業に選出されたこともあり、昨年以上の規模拡大を狙う。

＜取り組みごとの内容・評価・課題＞

〇特色資料、地域性を生かした事業の実施

六角凧絵付け体験	しなのがわたんけん
実際に「見附今町・長岡中之島大凧合戦」で使われている六角凧の絵付けを体験することで、地域の伝統行事への関心・愛着を持ってもらえた。	西館の特色資料である『信濃川』について学ぶ講座を開催。実際に河原へ行き、水生生物調査なども行った。
	

＜評価＞

「六角凧絵付け体験」では中之島凧組合に六角凧作成を依頼、「しなのがわたんけん」では信濃川河川事務所に水生生物等の講演してもらうなど、図書館行事を関連団体と連携して実施する機会を多く得ることができた。

その他資料展示の行事においても、近隣高校との連携や、各館特色資料に関連した団体・施設に作品提供の協力依頼などを行った。（互尊文庫の「長岡空襲写真・体験画展示」、西館の「信濃川写真展」、北館の「新潟県花火大会ポスター展示」や「中越高校写真部写真展」、「中越高校と本のエクスチェンジ」など）

昨年度課題であった募集定員に届かないイベントの再検討に関しては、「まいぷれ長岡」などの新しい広報ツールへの情報提供の他、近隣保育園・小学校へのチラシ配布、自館以外の図書館や近隣施設でのチラシ設置などの細かな周知方法を重ねたことにより申込みが増え、当日キャンセル以外で定員割れになることが無くなった。

＜課題＞

図書館事業に関心を持っていただける学校、団体や施設とは今後も繋がりを深めたい。利用者に地域の伝統や活動に理解を深めてもらえるような行事の提案を引き続き考えていきたい。

○図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクール

事前説明会	作品審査の状況
今年度は、中央図書館でもサポート教室（事前説明会）を実施。図書館近辺にある小学校からの参加者が増え、発展させることができた。 	低学年から高学年まで幅広い応募があった。今年度はその学年としての完成度を鑑みて、2 作品を最優秀賞とし、全国コンクールに推薦出品した。 

＜評価＞

昨年度の応募は市内１２小学校３０作品であったが、今年度は１６校の児童から４２作品の応募があり、昨年度に比べ参加校、作品数ともに増加した。また、本年度は事前説明会を中央図書館でも開催し、事前に行っている近隣小学校への働きがけを昨年以上に強化することもできた。コンクール終了後には「子ども達が調べ学習に興味を持ちいい傾向になっている」との小学校長の感想もいただくことができ、充実した内容となった。

なお、今年度最優秀賞２作品を全国コンクールへ推薦出品し、２作品とも佳作を受賞した。

＜課題＞

その年によって各学年の応募数に差があるため、現在は審査を全学年一斉として行っている。安定した作品数を集めることができれば、学年ごとの審査も考慮していきたい。そのためにも、まずはサポート教室や夏休み期間中の応対など、分かりやすい説明や資料案内を行い、応募作品数を増やせるよう努める。

２－５　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－５　勉強や職場内研修をはじめ、様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

２－５　重点事項を達成するための重点事業

①外部研修

②職場内研修

（１）重点事業概要

① 外部研修

県立図書館主催の研修等に職員を参加させ、また研修で得たことを職員間で共有し図書館職員としてのスキルアップをめざす。

② 職場内研修

職員研修は職員が講師となり、毎年度計画的に実施している。今年度はシステム研修などを予定。また子ども読書活動推進計画に関する勉強会を行う。

（２）事業実績

① 外部研修

別紙事業報告のとおり。

② 職場内研修

別紙事業報告のとおり。

（３）－１　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	Ａ	県内外の研修に参加し、研修の概要を参加者が全体会議や係研修で報告し、情報の共有を図った。
②	Ａ	レファレンス研修や避難誘導模擬訓練、ＡＥＤ研修を行った。 また、職員による勉強会を実施した。その成果は来年度予定している第二次長岡市子ども読書活動推進計画の策定に活かしたい。

（3）－2　総括評価

重点事項	評価	評価理由
5	A	外部研修・職場内研修ともに予定通り実施し、成果を上げることができた。

（4）今後の課題・方向性

・新潟県内の研修のみではなく、全国図書館大会や図書館総合展などの全国規模の研修に参加し、最新機器や図書館の最新の動向などの情報を得ることができ、さらに、その内容を全体会議等で報告し、職員間での情報共有に努めた。

・館内研修では、新潟市立坂井輪図書館の館長辰口裕美さんに講師をお願いし、接遇研修を行った。

・今後も研修の情報を職員間で共有しサービスの向上や業務改善に活かしていく必要がある。

・勉強会については、今後も継続し、職員の意識改革につなげていく必要がある。

・地域館については、定期的に行っている職場内研修、県立図書館主催の外部研修の他、同指定管理者が受託している県内の図書館で行われている研修にも積極的に参加する。その内容に関して地域館同士で情報共有していく必要がある。

重点事業：２－５－①　外部研修

＜目的・概要＞

・新潟県立図書館などが主催する研修に職員を参加させ、また、研修で習得したことを職員間で共有し図書館職員のスキルアップを目指す。

・地域図書館では、県立図書館等の外部研修には今年度も積極的に参加する。

＜参加研修＞

①新潟県公共図書館新任職員研修	５月 18、19 日（参加中央館２名　地域館７名）
②新潟県公共図書館児童部門研究集会	６月　９日（参加中央館２名　地域館２名）
③著作権セミナー	７月２９日（参加中央館２名）
④新任図書館長研修	８月３０日～９月２日（参加地域館１名）
⑤図書館総合フォーラムｉｎ塩尻	７月　３日（参加中央館３名）
⑥歴史資料保存活用研修会	７月２２日（参加中央館５名）
⑦新潟県公共図書館中堅職員研修会	９月２３日（参加中央館２名　地域館６名）
⑧子ども読書レベルアップ研修	１０月１７日（参加中央館２名）
⑨中堅職員ステップアップ研修	１０月２４日～１１月３０日（参加中央館１名）
⑨全国図書館大会	１０月１６日（参加中央館１名）
⑩新潟県公共図書館総合部門研究集会	１０月　７日（参加中央館３名　地域館１名）
⑪関東甲信越静地区図書館地区別研修	１１月２９日～３０日（参加中央館１名）
⑫図書館総合展	１１月８～１０日（参加中央館４名　地域館２名）
⑬児童文学連続講座	１１月７、８日（参加中央館１名）
⑭新潟県内図書館実務担当者会議	１２月　８日（参加中央館２名　地域館４名）
⑮図書館建築研修会	２月２１日（参加中央館１名）
⑯ビジネスライブラリアン講習会	２月２７日～３月１日（参加中央館２名）
⑰新潟県公共図書館職員専門研修会	３月　２日（参加中央館２名　地域館３名）

＜評価＞

（今年度実績）　中央館　３６名　参加　　地域館　２６名　参加
（昨年度実績）　中央館　６１名　参加　　地域館　２２名　参加

・中央図書館では、県外研修への参加者を増員し、先進地の事例や最新の機器、サービスの動向情報を得ることができた。係研修で情報共有し、今後の業務に活かしたい。
・今年度は長岡市での研修開催がなかったため、参加人数が減少した。多くの職員が研修に参加できるよう予算確保、研修誘致を図りたい。
・地域図書館では、県立図書館等が主催する研修に例年並みに参加することができた。

＜課題＞

・中央図書館では、外部研修の成果（情報）を職員間で共有し、業務改善の取り組みをどう行っていくか検討する必要がある。

・地域図書館では、研修内容の情報共有を自館だけでなく地域館全体で把握できる手段を構築する必要がある。

重点事業：２－５－②　職場内研修

＜目的・概要＞

・職員が講師となり、職員の専門性向上・情報共有を図る。内容は「システム研修」等。

・職員勉強会を行う。２８年度のテーマは「子ども読書活動推進計画」。

・地域図書館ではスタッフの能力育成のため年３回の全体研修を行う。今年度はその中に、図書館業務以外で知識を深めておきたい普通救命講習や認知症に関する研修も計画。

＜研修内容＞

〇中央館

①図書館の接遇とクレーム対応　　６月３０日　講師：新潟市立坂井輪図書館　辰口館長

②レファレンス研修　防災訓練　８月３１日　講師：新潟県立図書館　根岸主任司書

③【合同研修】９月３０日

長岡市の人権政策　　講師：栗林男女協働参画推進室長

長岡市域の歴史資料と同和問題　講師：田中文書資料室長

④新しい図書館サービスの動向について９月３０日　講師：松矢係長

⑤業務に使用する各種ソフトの活用例について１０月３１日　講師：大関司書

⑥職員スキルアップ研修「図書館を演出する　ひきつける空間とは」１１月３０日

講師：尼川ゆら氏（空間演出コンサルタント）

⑦研修報告「ブックトーク研修」２月２３日　講師：河田主任

⑧研修報告「ステップアップ研修」２月２４日　講師：井口主査

⑨堀口コレクションについて　２月２７日　講師：松矢係長

⑩図書館のインターネットサービスについて　２月２８日　講師：安部主事

※子ども読書活動推進計画勉強会　１０月３１日（発表・意見交換）

〇地域館

＜ＴＲＣ内部研修＞※全地域館スタッフが参加

① 新潟県合同研修５月３０日、３１日

レファレンス研修　講師：ＴＲＣレファレンス担当顧問　寺尾 隆氏

調べる学習研修　講師：白百合女子大学非常勤講師　中村 伸子氏

②【中央館合同】９月３０日

長岡市の人権政策　　講師：栗林男女協働参画推進室長

長岡市域の歴史資料と同和問題　講師：田中文書資料室長

③ 長岡全体研修　１０月３１日　普通救命講習Ⅰ　講師：与板消防署　救急係

④ 長岡全体研修　１月３１日 ブックトークについて　講師：中央館嘱託員　高橋 啓美さん

認知症サポーター養成講座　講師：長岡市地域包括支援センター

なかのしま・よいた 職員３名

※個人情報保護研修　１０月４日（各地域館責任者向け）、１０～１２月（各館ごとに実施）

＜中央館、他市ＴＲＣ研修への参加＞

①【中央館】職員スキルアップ研修　６月３０日　（17 名参加）

接遇とクレーム対応　講師：新潟市立坂井輪図書館長　辰口 裕美氏

②【三条】選書研修　　６月３０日　講師：ＴＲＣアドバイザー　末次 牧子氏（２名参加）

③【三条】コーチング研修　　８月３１日　講師：ＴＲＣ研修担当　安川 恵美氏（２名参加）

④【中央館】職員スキルアップ研修　１１月３０日　（１５名参加）

図書館を演出する ひきつける空間とは　講師：空間演出コンサルタント　尼川 ゆら氏

⑤【新潟県合同】ＭＡＲＣ研修　１１月２８日、１２月２６日　（計７名参加）

講師：ＴＲＣ研修担当　安川 恵美氏

⑥【新潟】高齢者対応（接遇）研修　１月２７日　（３名参加）

講師：中央区中央第二訪問介護センター　奥野 京子センター長ほか５名

＜評価＞

（今年度実績）　　中央館　１０回実施　　地域館　４回実施

（昨年度実績）　　中央館　８回実施　　地域館　３回実施

中央図書館では職員が講師となり、経験の浅い職員に研修を行った。また人事課の職員提案型研修に応募し、外部講師を招いて「職員スキルアップ研修」を行った。

また、子ども読書活動推進計画に関する勉強会を行い、５年間の施策達成状況を振り返り他市町村の二次計画の内容を調査、二次計画の内容について検討した。

地域図書館では実務をテーマとした研修のほか、救命講習や認知症サポーター講座など、身近で起こった場合の対処について実践を含む研修を実施した。また、中央図書館開催の研修や指定管理者という繋がりを活かした他市受託館での研修への参加、TRC 本社から配信される e-ラーニング講座の受講など、スタッフが学べる環境を強化した。

昨年度は勤務経験の浅いスタッフに対し、チーフが各地域館を回り指導を行ったが、今年度も各地域館へのヘルプ業務や各種研修へ参加することで、スタッフのレベルアップに繋がった。

＜課題＞

中央図書館では、外部講師による研修を希望する職員が多いことから、他部局の市職員を講師として有効活用するとともに、今後とも様々な手段で研修の機会を設ける必要がある。また、あわせて、マイナンバー制度の図書館での活用や障害者差別解消法の施行などに対応するため、勉強会や自主研修の充実を図る必要がある。

地域図書館では、研修形態の見直しが必要である。全スタッフ参加の研修を行うためには、全館が休館となる月末日を利用せざるを得ないが、旧市内４館に関しては平均年 2、3 回特別開館日にあたる場合がある。

２－６　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－６　利便性の向上を図り、快適な環境づくりに努める。

２－６　重点事項　を達成するための重点事業

① 子ども連れへのサービス
② 快適な環境づくり
③ 館外サービスの充実と利用の拡大を図る

（１）重点事業概要

①　子ども連れへのサービス

・小さな子ども連れ利用者が利用しやすいサービスを提供する

②　学習室などの環境整備

・中央図書館の前庭にベンチテーブルやプランターを設置し、来館者の休憩スペースとして利用する。

③　館外サービスの充実と利用の拡大を図る

・自動車文庫「米百俵号」による一般巡回を実施する。小学校・保育園において読み聞かせを行い、子どもたちの読書活動の推進を図る。

・夏季に市内小学校にて米百俵号ブックカーニバルを実施し、子どもが本に親しむ機会を作る。

・市内小学校に対して学校配本を実施する。

（２）事業実績

①　子ども連れへのサービス

・一般の利用者に配慮を求める時間帯、「おやこタイム」を設定した。

・サイズの小さい子供用カートを設置した。

②　学習室などの環境整備

・平成 28 年７月から９月の月１回に、中央図書館の前庭で試験的に移動販売車による飲食物の提供を行い、月平均 240 名の利用があった。

③　館外サービスの充実と利用の拡大を図る

・一般巡回の希望のあった施設２ヶ所を追加し、巡回を実施した。

・夏休み期間に米百俵号ブックカーニバルを実施した。

（３）－１　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	Ａ	小さな子ども連れでも楽しんでもらえるよう、工夫した
②	Ａ	多くの方に利用いただき好評であった。移動販売車を見かけ、初めて来館される方もあった。
③	Ａ	一般巡回は予定通り巡回することができ、昨年と同程度の利用がある。 米百俵号ブックカーニバルでは、目標としていた１０ヶ所には届かなかったが、６ヶ所の施設で実施することができた。

（３）－２　総括評価

重点事項	評価	評価理由
６	Ａ	ベンチテーブル等の設置により、休憩スペースができ、利便性が向上した。 移動販売の誘致により、図書館利用のきっかけを作ることができた。

（４）今後の課題・方向性

・多くの方に移動販売を利用してもらうため、ベンチ等を追加設置する必要がある。

・おやこタイム実施に対する苦情はないものの「図書館は静かであるべき」と考える利用者も多く、図書館職員が注意すべきだという意見や苦情もある。多くの利用者に気持ち良く図書館を利用してもらうための方策が課題である。

・移動販売車については、来年度は７～９月ころに月１回程度の出店を依頼したい。

重点事業：２－６－①　子ども連れへのサービス

＜目的・概要＞

小さな子ども連れでも気兼ねなく利用できるサービスを提供する。

平成 28 年８月より、毎週金曜日の午前中を、一般の利用者に配慮・協力を求める「おやこタイム」とした。

小さな子どもでも使いやすい通常より 30cm ほど低い子供用のカートを購入した。

おはなし会スペシャルや親子のためのクリスマスコンサートなど、小さな子どもでも楽しんでもらえるよう工夫した。

セルフ貸出機にステップを用意したり、ボランティア室を授乳室として使用したりするなど親子が使いやすいよう工夫している。

子ども用カート	おやこタイム実施中は入口正面に掲示	おはなし会クリスマススペシャル
		

＜評価＞

「おやこタイム」については、まだ目立った反響はないが、一般の利用者からの苦情もない。これからもＰＲを続けていきたい。

　子ども用カートは、休日を中心によく利用されている。一般用を無理に使うことによる転倒もなく、安心して利用してもらえるようになった。

＜課題＞

「おやこタイム」の周知に努めるとともに、今後の運用について、場所や時間などを検討したい。

重点事業：２－６－②　快適な環境づくり

＜目的・概要＞

中央図書館の前庭にベンチテーブルやプランターを設置し、来館者の休憩スペースとして利用する。

移動販売車とベンチテーブル





＜評価＞

ベンチテーブルは多くの市民に利用いただき好評であった。移動販売車を見かけ、初めて来館するという人もいた。移動販売車での販売の際、立ったまま食べている人もいた。

＜課題＞

移動飲食販売の際に立ったまま食べている人がいたので、ベンチ等を追加設置する必要がある。来年度は７月～９月頃に開催したい。

重点事業：２－６－③　館外サービスの充実と利用の拡大を図る

＜目的・概要＞

・自動車文庫「米百俵号」の一般巡回を実施し、図書館から遠い地域の利用者へサービスを提供する。小学校・保育園において読み聞かせを行い、子どもたちの読書活動の推進を図る。

・夏季に市内小学校・児童館等にて米百俵号ブックカーニバルを実施し、子どもが本に親しむ機会を作る。

・市内小学校 42 校に対して学校配本を実施する。

米百俵号ブックカーニバル（貸出）	米百俵号ブックカーニバル（読み聞かせ）
	

＜評価＞

・一般巡回で 13 コース（102 ヶ所・前年度比＋２ヶ所）を年に 10 回巡回する。小学校・保育園２６ヶ所において読み聞かせを行っている。累計貸出冊数は 60,134 冊となり、前年度比＋454 冊となった。

・夏休み期間に小学校や児童館６ヶ所で「米百俵号ブックカーニバル」を実施した。読み聞かせやパネルシアター、スライム作り、本の貸出を行った。

（今年度実績）

利用者数　３４０人　　貸出冊数　７９１冊

（昨年度実績）

利用者数　１７１人　　貸出冊数　５９７冊

・市内小学校 42 校に対して学校配本を実施した。希望する数量の資料を選定し、年２回（春・秋）入れ替え方式で貸出を行った。

＜課題＞

・巡回場所については、利用者のニーズに合わせて毎年度検討する必要がある。

・一般ステーションの利用者を増やすための広報活動等が必要である。